令和８年度　授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬小学校

1　学校として目指す授業

子供が自ら学ぶことのできる授業　「教える授業」から「学ばせる学習」へ　　～「教えること」と「考えさせること」を見極めた授業～

2　児童の現状

（１）「全国学力・学習状況調査」の分析（６年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
国語科では、平均正答数7.9で、全国平均数7.9と同じであるが、東京都平均数8.4を下回った。算数科では、平均正答数9.3で、全国平均数9.0を上回り、東京都平均数10.1を下回った。正答分布グラフを分析すると国語では正答数3問、算数では正答数4問の山が突出している。記述式の問題形式の正答率が47.3で、全国の54.9、東京都の56.3を下回っていることから、記述して回答する能力を高めることが課題である。	自己肯定感を問う質問では、90％以上が当てはまると回答をしており、全国や東京都が85％前後であることを踏まえると、本校児童の自己肯定感は高いと思われる。また、先生がよいところを認めているかの質問でも、98％の児童が当てはまると回答をしており高い。解答時間についての質問では、やや足りなかったと答える児童が38％と多く、こちらでも記述して回答する能力を高めることが課題であると分かる。

（２）清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（４～６年生）

・主要教科では、どれも「授業の内容が分かる」と肯定的に回答した児童が90％近くいる。一方で、「得意かどうか」では、肯定的回答が60％から75％程度になる。学習する理由は、「分かることやできることが楽しいから。」「しっかり考えられるようになりたいから。」「将来の仕事や生活に役立つから。」という項目で肯定的回答が多くあった。日常生活と関連付けたり、考える意義や楽しさを実感できるような活動を設定し、分かった・できた経験を積み重ねることで、児童が得意だと自覚できるようにしたい。
・学習の進め方では、他の人に質問をしたり相談したりして学習をすすめることや、自分の考えを説明することに対する肯定的回答が低い傾向にあった。また、できるようになるまで繰り返し取り組むという項目では、「４　当てはまる」と回答した児童が20％程度だった。知識技能の問題は、繰り返し取り組む時間を確保しながら、児童自身が自分の得意不得意を捉え、課題に合った問題に取り組むことを指導するとともに、他者と協働して学習したり自分の考えを説明したりする場面をより充実させることが必要である。
・以下の項目で、肯定的回答が他と比べて少なかった。
　・漢字：部首の意味や類義語・対義語、熟語などを確かめること。
　・国語：他の人の話をメモを取って理解すること。文章の大切な箇所や疑問に思った箇所に線を引くこと。
　・算数：問題文の内容を図や表、グラフに表して考えること。
　このことから、各学習での学び方を指導し、情報（知識）を整理したりつなげたりすることをより意識して取り組むことが大切である。

（３）　その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
【新体力テスト】 ・全国平均と比べると「敏捷性」と「巧緻性」に課題がある。（全国のTスコアを50としてみると、清瀬小5年生は42.6及び46.2）低学年はさらに「瞬発力」も課題となっている。（全国のTスコアを50としてみると清瀬小45）休み時間や家でもできる運動を周知していく必要がある。 ・個別最適な学びの充実を念頭に、各学年の体育の学習を見直していく。

3　児童の学力・学習状況等の課題

・基礎的・基本的な学習が定着していない児童が多いため、東京ベーシックドリルの復習や家庭学習の啓発を促す必要がある。
・話を聞くことで理解をすることが難しい児童が多いため、視覚的な支援も取り入れながら、言語活動の充実を図る必要がある。
・学習した内容を、自分で活用する意識が低い。

【授業改善推進プランの活用法】
①「１　学校として目指す授業」を設定する。
　※学校経営方針との関連を確認すること。
②「１　学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「２　児童の現状」にまとめる。
③「２　児童の現状」を基に，学校全体の課題を焦点化して，「３　児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「３　児童の学力・学習状況等の課題」を基に，「４　学校全体の授業改善の視点」を設定する。
⑤「４　学校全体の授業改善の視点」を基に、「５　各教科における授業改善の方策」を設定する。　→　教育指導課へ提出する。
⑥12月末に実施状況を評価し、３学期以降の指導に生かす。

4　学校全体の授業改善の視点

・朝学習の時間や補習等を活用し、反復して取り組ませることで、基礎的、基本的な学習内容の定着を図る。
・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、粘り強く取り組む態度を養う工夫をする。
・校内研究を通して、主体的に学ぶ児童の育成を図る。つまずきを洗い出し、それに対する手だてを複数講じる。単元で働かせたい見方・考え方を教師が意識し、これまでの学習とのつながりを意識した指導を行うことで、学習内容を活用できるようにする。

5　各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・毎時間授業の初めに音読する時間を設けるとともに、ペアで自分の考えを伝える活動を取り入れる。 ・自分の考えを持つ時間や機会を十分に設ける。				・数量について、具体物や半具体物を使った数学的活動を取り入れながら、自力解決に繋がるようにする。 ・ペアやグループで自分の考えを伝える活動を取り入れる。				・実物を見たり触れたりすることで、自分の考えや意見をもてるようにする。 ・観察の視点を全体で確認することで、視点をもって観察し、言葉で表現できるようにする。		・曲に合わせた簡単なリズム体操を踊りながら階名に親しむ。 ・曲調を捉えるために、簡単なリズムやゆっくりとしたリズムなどからスモールステップで取り組ませる。		・友達の作品を見て、よいところや工夫したところを互いに伝え合う。 ・活動の予定を示し、見通しをもたせてから取り組ませる。				・遊び方の工夫や、運動の行い方についての考えを伝え合う時間を確保する。 ・1単位時間の中で、多様な運動遊びを取り入れ、いろいろな動きができるようにするとともに、互いに見合う時間を設け価値付けることで、友達のよい動きを知ることができるようにする。				・範読や場面絵を基に、自分の考えをもちながら聞く。 ・自分の考えをワークシートに書く時間を取り、ペアなどで意見交換をし、クラス全体で考えを共有する。	
中学年	・小グループで自分の考えを発表したり、交流したりする場面を多く取り入れる。 ・自分の考えを分かりやすく伝えるために必要な語彙や表現、文章構成などの、基礎的・基本的な力を反復練習を通して身に付ける。		・児童が「なぜだろう」「調べてみたい」と,問いをもたせられる資料を提示し、児童が主体で調べ学習をすすめられるようにする。 ・ICTを活用し、視覚的に課題を提示する。		・基礎的・基本的な計算を繰り返し取り組ませる。 ・ペアやグループで考えを伝え合う活動を取り入れる。 ・表や図などを活用し、視覚的に支援を取り入れる。		・ペア、小グループで考えを発表したり、交流したりする機会を意図的に設定する。 ・実験・観察等の条件を整理して、考察できるように指導する。				・演奏動画やタブレットの録音機能を活用し、自身の演奏を視覚・聴覚的に客観視させる。 ・ペアやグループでの交流活動を充実させ、音楽の要素や良さを自分の言葉で表現する語彙力を養う。		・友達の作品を鑑賞し、よいところや面白いところを伝え合う。 ・鑑賞の時間を題材の終わりだけではなく、途中にも設定することで、学習したことを自分の作品づくりに生かせるようにする。				・話し合う時間を意図的に設けることで、学び合いの機会をたくさん取り入れた活動をする。 ・見つけたコツや友達からもらったアドバイスなどを共有する時間を設ける。		・自分の考えや気持ちを英語で伝える機会をつくる。 ・ペアやグループで考えを伝え合う活動を取り入れる。 ・ALTを中心に連携し、ICT教材も活用しながら、授業改善を図る。		・自分事として考えられるように、日常生活と関連付けをし、出た考えや意見を共有できるように、交流する場を設ける。	
高学年	・自分の考えを言語化できるように、友達に考えを伝えたり、聞き合ったり、互いに感想を書いたりする活動を取り入れる。 ・語彙の習得と国語学習への意欲向上のため、授業導入時に詩の暗唱や百人一首等の活動を行う。		・児童の興味関心を高める資料を提示することで、児童が主体的に学習問題を立てたり、調べ学習をすすめたりできるようにする。 ・学んだことを自分の言葉で表現できるようにする。 ・写真などの資料や発問を工夫する。また、見通しをもてるようヒントとなるカードを提示する。		・既習事項を踏まえ、ICTを活用して、思考する時間を確保する。 ・これまでの学習とのつながりを意識した指導を行う。 ・自分の考えを説明したり友達の考えを聞いたりすることで、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		・ペア、小グループで考えを発表したり、交流したりする機会を意図的に設定する。 ・実験・観察等の条件を整理して、考察できるように指導する。 ・既習事項を踏まえながら、ICTを活用して、思考する時間を確保する。				・選択的な学習を取り入れ主体的に表現を工夫する環境を整える。 ・掲示物や交流活動を活用して音楽的な用語を定着させ、確かな技能や知識に基づいた深まりのある思考・判断を促す。		・自分で材料やテーマを決めて活動することで、表したいイメージを深める力を高める。 ・授業開始前に作品を掲示しておき、互いのアイデアのよさや面白さを認め合うことができるようにする。		・調理、裁縫等実践的な活動を多く設定し、自ら考え主体的に行動することができるようにする。 ・実践的な活動に協働的に取り組むことで、互いに高め合いながら技術の向上を目指す。		・目標を可視化し、それに向かって各自が毎時間努力出来るように促す。 ・活動中に友達同士で見合ったり、助言し合ったり、振り返ったりする時間を設ける。		・ペアとの活動を増やすことで、児童同士がやり取りする時間を確保する。 ・学習したことを繰り返すために、既習事項を使った言語活動を増やす。		・少人数や学級全体で意見交換する時間を確保し、互いの意見を尊重し、価値観の幅を広げられるようにする。 ・考えの発出と共有のため学習カードやICTの活用をする。	